



主な内容

PASCH 調印に伴うベルリン視察報告	渡辺和雄	(1)
獨協時代の思い出	馬淵静雄	(4)
6月19日(土) 総会・懇親会 開催		(4)
獨協同窓会 平成21年度 収支決算書		(5)
獨協同窓会 平成22年度 収支予算(案)・職業別記入番号表		(6)
<目白だより>		
平成22年度大学別合格者数		(7)
マラソン大会 40年!!	柳本 博	(8)
アーチェリー部 強豪校への一本道	齋藤有子	(9)
獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い	木原正義	(10)
私の近況 卒業 10年		(11)
クラス会だより		(13)
物故者名簿		(15)
年会費納付のための「コンビニ収納」導入について		(15)
年会費納付のお願い		(16)
編集後記		(16)



題字・天野貞祐

第74号

平成22年5月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 荘太郎

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会 検索

PASCH 調印に伴うベルリン視察報告



ガリレオ小学校の校庭で遊ぶ小学生

昨年9月5日、本校とゲーテ・インスティトゥートとの間でPASCH協定書の調印がなされた。PASCHとは、世界各国でドイツ語を学習する学校500校（将来的には1,000校に拡大の予定）と在外ドイツ学校500校がパートナー校として協定を結び、交流活動を通してドイツ語能力の向上、ドイツに対する興味の深化を目的としたドイツ外務省によるプロジェクト「学校：未来を招くパートナー」(Schulen: Partner der Zukunft)の略称である。日本からは本校を含め、4校が選ばれ

獨協高等学校教頭 渡辺和雄

だが、ドイツとの長い歴史、ドイツ語教育の伝統を考えるなら、選ばれて何の不思議もないと言ったところである。

当日の、調印式、生徒も交えたパーティーに引き続き開かれた懇親会では鈴木荘太郎同窓会会長にご挨拶頂いた。本校とドイツとの長い歴史の結果としてある今回の調印を共に喜んで頂くお言葉を頂戴し、深く感謝する次第である。

さて、今回のベルリン視察は、PASCH 調印の一環として、ドイツでの環境教育を中心に、語学教育、音楽教育の実情見聞を目的として、ドイツ政府の招きによって実現したものである。日程は11月28日～12月5日、参加者は本校からは須江康司ドイツ語科主任、古池利明芸術科主任、そして私の3人とゲーテ・インスティトゥートの担当者、白鳥由紀子氏の計4名である。

ベルリンでの宿は、ベルリン発祥の地とも言われる、アレクサンダー広場に面したパーク・イン・アレクサンダープラッツである。このホテルの立つ境界は森鷗外『舞姫』の主たる舞台となった場所で、クロステル街、主人公太田豊太郎がエリスと出会ったモデルにされたとの説もあるマリエン教会も近くにある。また、鷗外第2の下宿も近く、往時のままとは言えないが、散策の度に文学的感興に浸る格別の思いができたことは、近代文学を学んだ者として望外の喜びであった。ちなみに、若い同窓会会員諸兄には馴染みがないかもしれないが鷗外の長男於菟は本校の卒業生である。

現地では北海道大学大学院に留学経験のある、日本通のヴォルフガング・パウワー氏に案内してもらった。日本語が堪能な上、われわれの意を瞬時に汲み取ってもらえて、今回の視察が有意義なものになった大きな理由は、氏のガイドに拠るところ大である。とは言え、到着の日にホテルで夕食を取りながら（当然ドイツの食事は我々日本人にはまさに山であった）最初の打ち合わせをした折には戸惑った。「校庭」の意味が通じないのである。明日は校庭を見学すると言われていたのにもかかわらず、である。日本では校庭は運動場のことだ、と言ってもそれは庭ではない、校庭と言うのは学校の庭だから校庭と言うのではないかと譲らない。なかなか想像ができないが、公園をイメージしながら対応するとなんとか話が通じる。なんとなくぼんやりした感じのままその日はそれで終わったが、次の日、私の疑問は氷解するどころか、素直な驚きに変わっていた。

翌日、ベルリン教育科学省を訪ねレクチャーを受けた。（ここで、かつて本校を訪ねてくれたことのある懐かしいクール女史に再会できた。彼女はすでに職を退いていたが、獨協の教員がベルリンにやってくると知って会いに来てくれたのである）DVDになっている資料で見たのはまさに学校の中にある公園であった。説明を受けた後、ガリレイ小学校を訪問して実物を見たのだが、ちょうど休み時間になって、子供たちが校庭に出て来ると私たちの訪問とが重なった。花壇があり、バランスをとりながら渡るよう丸太を組んだ遊具があり、ベンチが置いてある。そのベンチも足を投げ出したり、寝そべったりと子供の身体がどんな状態であろうと使えるように大きめの座面が円形に配置され、その上遊具にもなるよう三段に組み上げられていた。子供たちはそれらの遊具の間を走り回り、駆

けり、駆け下りていた。まことに生き生きと。

その後に見学した校庭はいっそう工夫が凝らしてあった。日本で言う「校庭」に隣接する斜面には川が流れ、崖の下に砂場があり、ここにもラバーを張ったバランスをとる遊具が置いてある。崖は柔らかい岩でできており、子供たちが思い思いの彫刻を施している。すべてが子供たちの視点から作られていて、実際に子供たちのアイデアが取り入れられただけでなく、製作も子供たちと共になされたと説明を受けた。これらの場所では体操もできるし、かくれんぼもできる。一人ぼっちにもなれる。また、協力して何かをすることもできる。その最たる仕掛けは井戸の汲み上げポンプである。とても大きなもので、一人で汲み上げることができるような代物ではない。ここが味噌なのである。誰かと協力しなければ汲み上げられないようになっていたのだ。このポンプは他の場所でも見ることができた。実際に体を動かさず中で自然と触れ合うことでエコロジーについて学びながら、他者とのつながりを回復していく、単純ではあるが優れた装置が出来上がっていた。こうした校庭はゲーテ・オーバーシュレにも有ったが、そこはさすがにギムナジウムで生徒の年齢層が違うため遊具の類はなかった。

ゲーテ・オーバーシュレでは、アスファルトを生徒たち自身が引き剥がし、植物が植えられていた。見事に整えられた庭とは言えないが、植えられていたのは薬草であったり、香料の取れるものであったり、石鹼の成分になるものであったり、2次使用ができるものが中心である。菜園もあって、収穫された野菜は生徒・保護者・地域の人で食すそうだ。ここでも学校生活の中で、自らの身体を通して自然を実感できるような仕掛けがなされていた。

先の、ガリレイ小学校、ゲーテ・オーバーシュレの緑化は「緑が学校を作る」(Grün Macht Schule) のプロジェクトの一環として行われているものである。このプロジェクトは州の担当者、教育関係者のみならず、研究者も関わる州を挙げてのもので、実行後、生徒たちは心の落ち着きを取り戻し、校内での乱暴な行為や壁の落書きもなくなった上、地域の犯罪発生率も低下するという好結果をもたらしたそうである。

とは言え、ゲーテ・オーバーシュレの生徒たちは恵まれていた。校長先生の話によるとこのギムナジウムは経済的に豊かな層が住む地域にあって、両親共に高学歴で、緑化が進むまでは校舎の壁は落書きだらけで校内は少々荒れていたと聞いたが、全ヨーロッパの物理学のコンペで優秀賞を通ったこともあるこの学校の生徒たちは自信にあふれていた。一方、訪ねたもう1校のテンプルホーフにあるノイマルク小学校の生徒たちの生活環境は深刻であった。小学校の生徒たちの98%、町内の住民のうち90%が移民であった。子供たちが今後ドイツで生活していく上でドイツ語の習得が欠かせないために、この小学校ではドイツ語の授業

を大切にしているとのことであったが、家に帰ればドイツ語を話せない両親との生活が待っている。そのため、なかなか習得ができないのが苦しいと校長先生は話していた。

ドイツ語の授業を確保する一方で、そのほかの授業を減らし、音楽美術の課外授業を増やしていた。言語の壁のない授業でかつ体を使って取り組めるものを通して、言語、文化、宗教の壁を乗り越える試みであるように見えた。吹奏楽の練習を見学させてもらったが、練習はかなり厳しく行われていたとは言え、素人目に見ても将来この道に進めるレベルに達している生徒はいないように思えた。休み時間に校内を案内してくれた少年はパレスチナからきたと話してくれたが、案内のお礼としてその場で折って渡した折鶴を大事そうに持っていた。その後授業を見学に行くといつの間につけたのか、糸を通して大事そうに手にぶら下げていた。私の顔を認めて微笑んでくれたその笑顔は本物だとしても将来もその笑顔で大人になっていけるかは、校長先生の話を聞く限り確かなものではないだろう。

現在ベルリンでは学制改革が進められている。早くから能力によって卒業後に進む上級学校を振り分ける制度を改めていた。基礎を学習する期間を2年間延長し、早くからドロップアウトする生徒をできるだけ少なくする意図によると教育科学研究省の担当者から説明を受けたが、それによって、ギムナジウムに行かない生徒たちが社会のリーダーになる確率は高まるのか、社会的な格差は縮まっていくのかとの問いには、「Nein」の返事しか返ってこなかった。ベルリンでも公立の教育に不満を持つ親がいて例に漏れず裕福な家庭の親は子供を私立の学校に入れようとしているようである。「アメリカ下層教育現場」(光文社新書)の著者である林壮一氏が本校に見えた折、この話をしたところ大変に興味を持たれた。「いずこも同じ」ということだろう。いすれにしても、日本でも進行しつつある社会格差と教育格差の相関がよりいっそう深刻な形でここにはあった。

さて、「緑が学校を作る」である。このプロジェクトによって作られた緑は自然そのものではない。畑や街道や森林の原型を生かしながら広大な草原や森林、大きな池まで作って幼児から環境教育を行うために設けられたブリッツ協会野外研究所の施設の広大さには目を見張ったが、そこも自然そのものではない。言ってみれば「人工の自然」である。ここにあるのは、自然と対峙する人間が自分たちにふさわしい形に自然を変えていくヨーロッパに伝統的な自然観であろう。(スイスの牧草地は大変に見事であるが、放牧された動物たちにとって害になる植物が手作業によって入念に除去されるのを始めとして、人間が手を加えた結果美しく保たれているのと同様である)

現在のベルリンは主たる産業がないため、演劇や音楽を始めとした芸術の町として再生を図ろうとしているが、州政府の財政難、失業率の増加、外国人との共生等課題の多い、不安定な都市である。都市整備、産業の誘致等、東西ベルリンの統一後の課題も解決されていない。そうした状況の下、人々は自己を脅かすことなく安心して付き合うことのできる自然の中に身を置こうとしているのかもしれない。つまりはヨーロッパ伝統の自然の中にいることで、ヨーロッパの伝統を身体化し、心の平穩、身の安定を手に入れようとしているのであろう。これは自分の居場所を見つけるということではないだろうか。これはある種の保守主義といえるだろうが、担当者が「緑が学校を作る」プロジェクトは「学校、個人のアイデンティティを保障する狙いがある」と話していたことと符合する。また、先のノイマルク小学校の校長先生は「学校は外の社会に対して子供たちのシェルターである」と話していたが、社会と学校と校庭の入れ子構造の深い意味は、伝統的な文化に回帰することで孤立化する自分を支えようとする、近代社会に共通の課題を克服する試みにあるのではなかろうか。これはひとつの方法であるが、課題の大きさを実感すると共に、あきらめず社会全体で克服に向かう姿に心打たれた。

さて、旅も終わりである。帰国前日の夕方は最初で最後の自由時間であった。早速古池先生と伴って絵画館に出かけた。ベルリンフィルハーモニーのコンサートホールに向かい、富士山を模したソニーセンターの大屋根を望む小高い丘にある。数々の名画(息を呑むほどである!)の中でピカレスクの画家、カラヴァッジオの『愛の勝利』に出会えたのは旅の最後の大きな喜びであった。

今回の視察に当たって同窓会から獨協マーク入りのキーホルダーとストラップをお土産に持たせて頂いた。特にキーホルダーは行く先々で大変に喜んでもらってこちらもうれしくなった。ここに改めて鈴木荘太郎会長始め同窓会の皆様へ感謝の意を表させて頂く。

ドイツ国会議事堂にて(視察団)



獨協時代の思い出 馬 洵 静 雄 (昭和 14 年卒)

私の在学中は、満州事変の後で軍国主義一辺倒でした。私たちは中学生と云えども軍事訓練が正規の教科で、盛んに行われていました。三年生の夏には、習志野にある歩兵連隊の兵舎で泊り掛けで訓練を受けたものでした。そのときの写真が今なお残っており、左下の写真は五人の仲良しグループが営門の前で撮った写真です。当時はカーキ色の上下の服に膝まで黒のゲートル、腰には太い革のベルトに革の弾薬箱、右手には刃渡り四十センチ以上もある銃剣を装着した三八式歩兵銃を支えています。帽子は夏なので白いカバーが被さっていますが、獨協の校章を示すDの花文字が



一際目立っており、勇ましくも雄雄しい立ち姿となっています。右下の写真は閲兵式訓練の様です。広い兵舎の前の高い台には軍の佐官級の軍人が立ち、一列に二十人以上並び隊列を組んだ学生達は剣銃を付けた銃を肩にかつぎ列の中央にはサーベルを持った指揮官役の生徒が勇ましく「頭ら一右」と叫び、生徒は足音高く頭を右に向けて勇ましく行進している写真です。昭和 11 年の二・二六事件の時には校庭に小雪が舞い手で掬ったりし、教室のダルマストーブでは餅を焼いて食べた思い出があります。営兵門で撮った五人の学友の中で残っているのは私と大阪にいる三浦君のみになり、後の三君は他界してしまい往時を語り合える友も少なくなり、淋しい限りであります。



6 月 19 日(土) 総会・懇親会 開催

今年度総会・懇親会は下記のご案内のように平成 22 年 6 月 19 日(土)に開催されます。総会付議事項も併せてご確認下さい。

本年度事業としては一昨年からスタートしました母校の学園祭「獨協祭」への参加を引き続き計画してお

ります。今年は、10 月 2 日、3 日の両日に開催されますので、是非お立寄りください。

総会後は、例年通り椿山荘にて懇親会が開催されます。恩師、旧友も多数参加されますので奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

総会・懇親会のご案内

開催日：平成 22 年 6 月 19 日(土)

場所時間：総会 会場：獨協中学・高校小講堂 開始時刻：午後 5 時
懇親会 会場：椿山荘・ギャラクシー 受付開始：午後 6 時より
開会時刻：午後 6 時半より

総会付議事項：

- 第 1 号議案 平成 21 年度事業報告及び平成 21 年度収支決算報告の件
- 第 2 号議案 平成 21 年度収支差額金処分案承認の件
- 第 3 号議案 平成 22 年度事業計画及び平成 22 年度収支予算案承認の件

懇親会費：(会場受付でお支払いください)

- 昭和 22 年以前の卒業生……………無料
- 昭和 23 年～平成 16 年の卒業生……5,000 円
- 平成 17 年～平成 21 年の卒業生……2,000 円
- 平成 22 年の卒業生……………無料

◇出欠のお返事は同封の返信用封筒で、6 月 14 日必着でお願いします。欠席なさる方は付議事項をご検討の上、委任状に記名・押印してください。

獨協同窓会 平成 21 年度 収支決算書

平成 21 年 4 月 1 日から
平成 22 年 3 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	21 年度決算額 (A)	21 年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1 入 会 金	6,300,000	6,300,000	0	30,000 円× 210 名
2 会 費	6,410,000	7,000,000	△ 590,000	5,000 円× 1282 件
3 寄 付 金	79,623	10,000	69,623	スマイルBOX他
4 事 業 収 入	389,000	310,000	79,000	
総 会 会 費	379,000	300,000	79,000	
名 簿 売 上 代	10,000	10,000	0	
5 資 産 運 用 収 入	246,475	250,000	△ 3,525	利息等
6 その他事業積立金より繰入	2,500,000	2,500,000	0	
7 雑 収 入	43,000	10,000	33,000	
合 計	15,968,098	16,380,000	△ 411,902	

支出の部

科 目	21 年度決算額 (A)	21 年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1 事 業 費	10,746,764	11,180,000	△ 433,236	
(1) 総会費	1,905,889	1,910,000	△ 4,111	☆ 総会、懇親会費
(2) 会報費(獨協通信)	5,103,213	5,110,000	△ 6,787	☆ 72・73号制作費
(3) 事業通信費	1,812,885	2,000,000	△ 187,115	会報発送費等
(4) 慶弔費	241,000	300,000	△ 59,000	☆
(5) 渉外費	39,970	100,000	△ 60,030	諸会費等
(6) クラス会補助	270,000	300,000	△ 30,000	
(7) 卒業生記念品費	421,890	500,000	△ 78,110	
(8) 中高事業補助	200,000	200,000	0	図書費
(9) 獨協祭参加費	551,917	560,000	△ 8,083	☆
(10) 中高防災用品補助	200,000	200,000	0	
2 事 務 費	3,578,585	4,800,000	△ 1,221,415	
(1) 事務運営費	1,395,586	1,700,000	△ 304,414	事務通信費、振込手数料等
(2) 管理費	948,500	1,500,000	△ 551,500	事務局費等
(3) 会議費	388,843	500,000	△ 111,157	
(4) 旅費交通費	681,240	800,000	△ 118,760	
(5) 名簿管理費	123,386	200,000	△ 76,614	
(6) 雑費	41,030	100,000	△ 58,970	
3 予 備 費	0	370,000	△ 370,000	★
小 計	14,325,349	16,350,000	△ 2,024,651	
4 収 支 差 額 金	1,642,749	30,000	1,612,749	
合 計	15,968,098	16,380,000	△ 411,902	

★『予備費』当初予算額 1,000 千円のうち、☆『獨協祭参加費』へ 360,000 円振替
 " ☆『総会費』へ 10,000 円振替
 " ☆『会報費』へ 160,000 円振替
 " ☆『慶弔費』へ 100,000 円振替

貸借対照表 平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

利付国債	20,000,000	(基本財産) 基本金	21,000,000
		(運用財産) 事業積立金	25,771,770
定期預金	22,000,000	(1) 名簿積立金	5,000,000
		(2) 一般事業積立金	20,771,770
現預金	6,414,519	収支差額金	1,642,749
	48,414,519		48,414,519

収支差額金処分量

次のとおり、全額積立金に繰入のこととしたい。
(単位：円)

基 本 金	1,000,000
名 簿 積 立 金	200,000
一 般 事 業 積 立 金	442,749
計	1,642,749

※ 定期預金は 4 行に預託。

獨協同窓会 平成 22 年度 収支予算(案)

平成 22 年 4 月 1 日から
平成 23 年 3 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	22 年度予算額 (A)	21 年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1 入 会 金	6,300,000	6,300,000	0	30,000 円× 210 名
2 会 費	7,000,000	7,000,000	0	5,000 円× 1400 件
3 寄 付 金	10,000	10,000	0	
4 事 業 収 入	300,000	310,000	△ 10,000	
総 会 会 費	300,000	300,000	0	
名 簿 売 上 代	0	10,000	△ 10,000	
5 資 産 運 用 収 入	210,000	250,000	△ 40,000	利息等
6 一 般 事 業 積 立 金 より 繰 入	2,500,000	2,500,000	0	
7 名 簿 積 立 金 より 繰 入	3,500,000	0	3,500,000	
8 雑 収 入	10,000	10,000	0	
合 計	19,830,000	16,380,000	3,450,000	

支出の部

科 目	22 年度予算額 (A)	21 年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1 事 業 費	14,550,000	10,550,000	4,000,000	
(1) 総会費	1,900,000	1,900,000	0	総会、懇親会費
(2) 会報費(獨協通信)	4,950,000	4,950,000	0	74・75 号制作費
(3) 事業通信費	2,000,000	2,000,000	0	会報発送費等
(4) 慶弔費	200,000	200,000	0	
(5) 渉外費	100,000	100,000	0	諸会費等
(6) クラス会補助	300,000	300,000	0	
(7) 卒業生記念品費	500,000	500,000	0	
(8) 中高事業補助	200,000	200,000	0	図諸費
(9) 学友会補助	200,000	0	200,000	
(10) 獨協祭参加費	500,000	200,000	300,000	
(11) 中高防災用品補助	200,000	200,000	0	
(12) 名簿作成費	3,500,000	0	3,500,000	
2 事 務 費	4,000,000	4,800,000	△ 800,000	
(1) 事務運営費	900,000	1,700,000	△ 800,000	★ 事務通信費、振込手数料等
(2) 管理費	1,500,000	1,500,000	0	事務局費等
(3) 会議費	500,000	500,000	0	
(4) 旅費交通費	800,000	800,000	0	
(5) 名簿管理費	200,000	200,000	0	
(6) 雑費	100,000	100,000	0	
3 予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	
小 計	19,550,000	16,350,000	3,200,000	
4 収 支 差 額 金	280,000	30,000	250,000	
合 計	19,830,000	16,380,000	3,450,000	

職種 NO.

(職業別記入番号表)

医師の診療科一覧

職種 NO. が 29 または 30 の場合
併せてご記入下さい

1. 水産・農林・鉱業
2. 紙・パルプ・繊維
3. 化学・医薬
4. 石油・ゴム・硝子・窯業
5. 鉄鋼・金属
6. 電気機器・機械
7. 造船・自動車
8. 事務機その他機器
9. その他製造業
10. 電気・ガス・水道
11. 商社・卸売
12. 百貨店・スーパー・小売

13. 銀行・その他金融・保険
14. 証券・商品先物
15. 建設・不動産
16. 陸海空運・倉庫
17. マスコミ・通信・広告
18. 情報・コンピュータ関連
19. 議員・公務員
20. 教育
21. 設計士・エンジニアリング
22. 弁護士・会計士・税理士・
その他資格士
23. 出版・印刷

24. 医薬・化粧品販売
25. サービス・外食・料理旅館
26. 芸術・文化
27. 宗教・各種団体
28. 学生・その他
29. 医師：開業医
30. 医師：勤務医
31. 歯科医師：開業医
32. 歯科医師：勤務医
33. 薬剤師

- (1). 内科
- (2). 外科
- (3). 整形外科
- (4). 小児科
- (5). 産婦人科
- (6). 眼科
- (7). 皮膚科
- (8). 耳鼻咽喉科
- (9). 精神神経科
- (10). 泌尿器科
- (11). 放射線科
- (12). 麻酔科
- (13). その他

目 白 だ よ り



平成22年度大学別合格者数 (推薦者を含む延べ人数・平成22年4月8日現在)

進路指導部

<国公立大学>		国際基督教大学	1	東京医療保健大学	2	立教大学	10
筑波大学	1	国際武道	1	東京経済大学	1	立正大学	7
東京学芸大学	1	国土舘大学	2	東京工科大学	1	立命舘大学	3
東京農工大学	2	駒澤大学	11	東京歯科大学	1	流通経済大学	1
首都大学東京	1	埼玉医科大学	2	東京慈恵会医科大学	1	ルーテル学院大学	1
横浜市立大学	2	芝浦工業大学	25	東京電機大学	8	早稲田大学	13
小計	7	淑徳大学	1	東京都市大学	8	小計	425
		順天堂	1	東京農業大学	3		
<私立大学>		城西大学	3	東京理科大学	19	<大学校>	
青山学院大学	5	上智大学	4	同志社大学	2	水産大学校	1
麻布大学	2	昭和薬科大学	2	東邦大学	1	防衛大学校	1
亜細亜大学	3	杉野服飾大学	1	東洋大学	14	小計	2
岩手医科大学	1	成蹊大学	14	獨協大学	19		
桜美林大学	1	成城大学	8	獨協医科大学	5	<外国大学>	
学習院大学	11	聖マリアンナ医科大学	1	日本医科大学	1	Humboldt State	1
神奈川大学	3	専修大学	9	日本歯科大学	1	Monroe	1
神奈川工科大学	3	大東文化大学	6	日本大学	20	小計	2
神奈川歯科大学	2	拓殖大学	3	人間総合科学大学	1		
金沢医科大学	1	多摩大学	1	文教大学	1	<専門学校>	
関西学院大学	1	玉川大学	2	星薬科大学	1	東京医療専門学校	1
神田外語大学	1	多摩美術大学	1	法政大学	16	東京デザイナー学院専門学校	1
関東学院大学	1	千葉工業大学	21	武蔵大学	8	日本工学院専門学校	1
北里大学	5	千葉商科大学	2	武蔵野大学	1	ヒューマン国際専門学校	1
杏林大学	1	中央大学	10	武蔵野美術大学	2	小計	4
国立音楽大学	1	鶴見大学	1	明治大学	18		
慶應義塾大学	10	帝京大学	12	明治学院大学	8	合計	440
工学院大学	3	帝京平成大学	2	明星大学	6		
國學院大学	10	桐蔭横浜大学	1	目白大学	2		
		東海大学	5	酪農学園大学	1		

◆ 184名を送りだす 獨協高等学校卒業式

第62回獨協高等学校卒業証書授与式が3月10日、寺野理事長、アラルド・ゲーリックドイツ連邦共和国大使館文化部長、鈴木同窓会会長らの臨席のもと100周年記念体育館で行われた。

永井伸一校長は式辞の中で「社会に奉仕することが大切である。共同体がない限り社会は存在しない。社会の中で生きていくことが人間の使命である。」と語りかけた。鈴木会長から卒業生全員に対して記念品、山崎喜貴君ら5人に同窓会特別賞が贈られた。



◆ 210人の新入生 獨協中学校入学式

平成22年度の獨協中学校入学式が4月6日に行われ、新入生を代表して津田英明君の初々しい宣誓があった。

◆ 獨協中学・高等学校人事

新任 五十里 壮 史 (保健体育科)
(平成21年度より)
松尾 和 明 (国語科)
大塚 智 詩 (英語科)

◆ 学園に対する寄付

昭58卒有志(岩内伸幸・58卒小諸同窓会代表)より小諸日新寮維持費としての寄付、さらに昭58卒・菅谷敦人君からも寄付の申し出があった。

マラソン大会 40 年 !!

校報記録委員会 柳本 博

おだやかな川風を受けて走る少年たち。晩秋の明る
い陽ざし。リズムカルな息づかい。ペタペタと足音。
腕を振る姿。一生懸命、自分の限界に向かって背筋を
ピンと伸ばして汗する姿は、いつの時代も美しい。か
けがえのない瞬間です。

1970 年から始まった恒例の校内マラソン大会が
2009 年 11 月 20 日、節目の 40 回目を迎えました。そ
こで、草創期からの大会の様様を校報誌『Dokkyo
Mejiro』で写真特集してみることに。いわば「当世長
距離走者事情」です。40 年前といえばアポロ 11 号の



スタート前、緊張する中！

さまざまなかたちで称賛されます。オリンピックや正
月の箱根駅伝は言うに及ばず、太宰治の『走れメロス』
は中学 2 年の定番教材ですし、『ロッキー』に『炎の
ランナー』。今世紀に入ってから『夜のピクニック』
という恩田陸の名作も生まれました。よく
生徒に紹介するアラン・シリトーの『長距離走
者の孤独』で、主人公の不良少年は走りながら、
「誠実とは何か」考え続けます。

僕も考えます。40 年という時間の重み。た
しかに衣食住さまざま豊かになり、暮らしやす
くなってきている半面、言いようもない徒労感
に包まれる瞬間、人生の歩みをふと止めたくな
る瞬間もあります。獨協生たちも、勉強しやす
く、便利になったものの、純粋さやひたむきさ
を忘れていた部分があるのではないかと。コー
ス途中の監察をしていて、時おり見かけます。

走らない者を。圧倒的 majority はもちろん思いっきり自
らの限界に挑戦しようとしています。そんな中、ごく
まれに、薄笑いを浮かべながら、級友と談笑するだけ
でただ惰性で足を前に投げ出しているだけの者も。少



スタートダッシュ！

翌年、大阪万博の年。いまや、当時からは想像もつ
かなかったインターネット全盛。時の流れのあまりの速
さに慄然とする機会も少なくありません。当時の高校
生といえば、50 代の半ばになっている計算。本校生
もかなりの変貌を遂げているに違いない。そう
思い込み、貯蔵してある図書館奥の部屋の重い
ドアへ。ほこりの積もった卒業アルバムを書棚
から抜き出します。ところが、その目論見はす
ぐにガラガラと崩れ落ちます。……なあんた。
本校生のフォームはさほど変わっていません。
シャツに短パン。違いといえば髪型やメガネの
細かい形状、胸のゼッケンが手書きであるかど
うか、ぐらいなのです。セピア色の白黒写真で
あることを除けば、70 年代も 90 年代も区別は
つきません。思えば、あたりまえ。そしてこれ
はマラソンという地味な、しかし非常にベー
シックな競技のなせる業なのかもしれません。

洋の東西を問わず、人間が全力で走る姿は、



ゴール付近の光景 (いずれも 40 回大会より)

年の照れ隠し、無気力世代の名残り……。その後ろ姿に向かっていつも無言で視線を向けます。人生はマラソンであり、細かい起伏やペース配分が必要な長距離走なのだ。そしてこれは単なる比喻ではなく、いつか必ず目の当たりにする瞬間がめぐりくるのだ。僕にもありました。人生のあるはざままで、突然、自身の

マラソン大会がフラッシュバックする瞬間が。僕の視線を感じたのか、少しスピードが上がりました。そして、彼の目は前を向いているから心配ありません。獨協生諸君、これからも明日に向かって一歩一歩着実に走ってほしいものです。

アーチェリー部 強豪校への一本道

アーチェリー部顧問 齋藤有子

暖かな日射しが眩しい3月末、今年も静岡県掛川市で高校アーチェリーの全国大会が行われた。青々とした芝生、真新しい紙、ここぞとばかりに最新の商品が並べられた出張ショップ、オリンピックメダリストの講演、数多くの大学からのスカウト(!)、…さすが将来のオリンピック選手を輩出する全国大会、他の試合とは趣がまるで違う。

さて、本校赴任と同時にアーチェリー部顧問を任されて7年、その短い間に2回生徒を全国大会に送り込んだ名顧問としては、東京都代表となった本校の高校1年生の激励をしつつも、他校の様子が気になる。90m先の的を目指してのどかに描かれる放物線を横目に、ちらちらと会場内を偵察。どこの学校の生徒も自信に満ちあふれたいい顔をしている。自分たちは都の、県の代表だという誇り。もちろん態度も素晴らしい! 団体で参加している学校は、お互いにかけて



掛けモチベーションを高めている。なかには「はっけよい」なんていう東京では絶対に聞けないユニークな声もあり、ちょっとした異文化体験も。ここに獨協生が参加していることに満足感を抱きつつもふと感じる違和感。生徒の写真を撮りながら、なんだろう…と考えることしばし。わかった! ユニフォームが違うのだ! シャイな本校の生徒は、7年前は校名を隷書で刺繍した、目立たないユニフォームを着用していた。顧問を任せられ刷新したのはまずはこれ。現在はロイヤル

ブルーの地に明るい黄色のローマ字で「DOKKYO」とプリントされている。これはこれでおしゃれなのだが、全国常連校が使用しているのは漢字、しかも「楷書」なのだ! なるほど、遠くからも非常に見えやすい。何より、堂々として見えるから不思議だ。

よし、獨協生よ、次のステップへ進もう。今度目指すのは、全国大会ではない、全国大会常連校としての座だ! そのために、まずはユニフォームチェンジだ! 帰郷後直ちに部会を開き、出場した選手と共に熱い思いを語ると、「換えましょう。僕たちは強くなりたいです!」。君たちにその前向きな思いがある限り、獨協はまだまだ強くなるよ。



目白だより

今回は強豪校の監督として大会参加…なんて野心を抱いていたら、まだまだ甘かった。「先生、今度はインターハイですね」「次の全国は複数で行きましょう」。君たちの目標は遙か先を行っている！ やはり、レベルの高い大会というのは、人を前進させる力がある。今日も真剣に練習をする部員の姿を見ながら思う。獨

協生、いいじゃないか！

*今年度の初戦で芝田君は見事3位獲得、まずは関東大会の切符を手に入れました！2年連続出場です。今年の関東は6月に千葉県で開催されます。応援を宜しくお願い致します。



写真中央は、アテネオリンピック銀メダリスト山本博先生



獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 木原正義 (昭和47年卒)

昨年は多くの同窓生より獨協祭・バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。おかげさまで例年以上の収益金があり、子供達に還元することができました。

さて、今年度も引き続きましてバザー用品のご寄付ならびにご提供をお願いしたいと考えております。皆様にはバザーの主旨をご理解いただき、お手元に眠っているお品物を下記要領にて、ご提供下さいますようよろしくお願い申し上げます。

記

1. バザー用品受付期間とご提供の方法

- ・9月17日(金)～10月1日(金)
- ・宅急便にて下記宛にお送りください。(元払いでお願い致します。)

〒112-0014 文京区関口3-8-1 獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」TEL 03-3943-3651

- ・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

*上記の期間ご都合が悪く場合は、いつでも結構でございます。

(但しロックアウト期間中の8月を除く) 問い合わせ先：獨協事務・淀縄(よどなわ)まで

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のもの。
- ・会社名などが入っているもの。(試供品・景品・粗品などをご遠慮ください。)
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの。
(未開封のものをお願い致します。また、手作りのお菓子は焼き菓子に限らせていただきます。)
- ・手作り品は材料費を明記してください。

獨協同窓会は
今年も獨協祭に参加します
10月2日(土)～3日(日)



今年の獨協祭は、①激動の幕末から明治期を過ごした獨逸学協会総裁「北白川宮能久親王」殿下と②軍人であり政治家でもある第2代校長「桂太郎」先生を取り上げ展示する予定です。ご期待下さい。「茶話コーナー」「展示即売コーナー」も併設します。皆様のご来場をスタッフ一同心よりお待ちしております。

私の近況 卒業 10年

●戦時下の昭和19年4月国防色の制服、戦闘帽、ズボンはゲートルを巻いて獨逸学協会中学校に入学した。入学早々の5月、軍事教練の為配属将校の池田中尉、教練の奥田教官等の引率で、3泊2日で富士の裾野に行った。戦時中の為、授業中も警戒警報が発令されると中断して下校した。終戦後は戦災、疎開等で生徒数が激減し、入学時の5クラスから3クラスになった。又、学制改革で中学4年修了で新制高校2年に編入した。

中嶋 眞治(昭25卒)

●書と画に分けられない「書のような画」、「画のような書」という、まさに「書画」と呼ぶしかない芸術——破天荒な書家、井上有一(1916～85)の筆墨が見る者に迫ってくる。中国でこの有一が、ルネサンス以降の芸術家を厳選して次々発刊している叢書『世界名画家全集』(河北教育出版社)の一冊に入った。ピカソやロダンと一緒に日本人ではただ一人だ。書道発祥の中国では書聖・王羲之以来の伝統が改革開放を経ても揺るがない中に、感性を噴き出させる「アヴァンギャルド」書法が波紋を広げている。『全集』に入ったのは、有一を世界に向かって紹介し続ける国際派美術評論家の海上雅臣氏の著作をもとにした『井上有一』(中国語訳=楊晶・李建華)である。海上氏は「感性を筆に仮託した書がようやく書の伝統破壊を嫌う中国に受け入れられた」と評価している。

海上 雅臣(昭25卒)

●60年余卒業以来雑多な経験を得ながら平々、なんとか日々を送る今日です。機会を得て新しき学び舎の校舎を知る事があり、時代と共に変化した獨協には、より、なつかしく思考しました。

江川 保二(昭25卒)

●蕨市で歯科医院を開業して以来、もう少しで50周年を迎えます。現在は自分の気力、体力に応じて午前中は、診療。午後はテニスか囲碁と云った毎日を送っています。

高橋 邦武(昭25卒)

●獨協が名門御三家の席を他校に譲ってからひさしい。一方、ドイツはこの冬季五輪で10個の金メダルを得ました。母校獨協も往年の金メダル名門校に復活することを願っております。

宇野 庫太(昭25卒)

●獨協高校を卒業後60年の年月を経て居り、戦時中、戦後の動乱期で、獨協時代の思い出は年と共に深いものがあります。現在相変わらず、診療に従事し、生涯現役の積もりです。子供達は獨協医大卒で内科医、眼科医として病院に勤務して居ります。

酒井 博(昭25卒)

●昭和20年8月15日、獨協の校庭で、朝礼台の上に置いたラジオの前に整列し、終戦の玉音放送を聞きました。とても暑かったことを覚えています。現在は妻と年金で平穩に過ごしています。

松田 務(昭25卒)

●獨協中学を受験する時、江戸川公園を左下に見るや、狭い坂道で、関口駒井町との、私と同姓の町名を見付け、縁起よしと喜んだことを思い出しました。そ

の時から60余年、老いの日々を元気？で過ごしております。

駒井 六雄(昭25卒)

●目白台の学窓を出て今年で60年！幸い健康の方は多少の故障はありますが、元気で過ごしています。日頃は読書(乱読)、サイクリング(近場)、そして趣味のJR線全国制覇の旅を時折しています。新校舎を未だ見ておりませんので、一度伺いたいと思っております。その節はよろしく。

鈴木 三郎(昭25卒)

●卒後60年よく生き延びたものである。東京大空襲、飢餓、そして飽食による心筋梗塞とバイパス手術、退職後は頻発するテロの間隙を縫って、中近東を徘徊中、まだ終らない終幕か？

本田 光芳(昭25卒)

●一昨年、住職を引退し、現在は隠居として部屋にこもり、点訳奉仕で日を送っております。

近江 正隆(昭25卒)

●ひたすら飲み、食い、駄弁って解散する超マンネリ化のクラス会の駄目幹事を今年で辞める。木材輸入会社を長年経営したが、習ったドイツ語は全く役に立たず、貿易はすべて英語で苦勞した。前立腺ガン、大腸ガンの治療中にビクター歌謡講師の試験に合格した。今抗ガン剤使用中なれど約30人の男女に楽しく歌を教えている。ただ、体力の低下で風邪をひくと長引いて困る。

市村 圭司郎(昭25卒)

●獨協高校を卒業して、既に50年が経ちます。私は自宅が学校に近い事もあり、50年間の学校の変遷、又、後輩達の登下校の姿を間近にて見ており、私の時代に比べ内容の格段の上昇に、地元においても誇りをもって観て来ました。獨協万歳！

樋田 修廣(昭35卒)

●現役引退の環境を整えたら、突然の「肺がん」宣告を21年正月に受けました。余命制限の中で昨年を全うし、平成22年を迎えています。

阪口 恒雄(昭35卒)

●卒業して50年、未だに天野先生の「君達は可能性そのものだ」のお言葉が頭に残っています。「可能性」は乏しくなりましたが、現役でがんばっています。

吉野 紘(昭35卒)

●卒業から50年、会社勤務を昨年6月無事(?)退職し、年金生活に突入しています。特に一定の方法はないが健康大事をモットーでなんとか暮らしています。

吉田 浩(昭35卒)

●卒業50年未だ現役で働いております。3年前生れ育った上野の近くに戻りました。只今、東京生活を堪能しております。普段はワングルOB仲間と、月1回の山行や、スキー等で楽しみ乍ら、健康維持に留意しています。

佐藤 八郎(昭35卒)

●2年前から崩していた体調もほぼ回復しました。八ヶ岳山麓でのガーデニング、風景や山草などの自然をテーマとした映像製作、イワナ釣り、燻製など、この春から再開を予定しています。

小林 勝正(昭35卒)

私の近況 卒業 10年

●人生半ばを折り返した35年卒です。63才以降は年金生活者となり、それ迄控え目だった好きなゴルフとスキーを楽しみ、元気にしています。好きな事は100才迄出来る様にしたいと思っています。

浅沼 博(昭35卒)

●親を看取り早や3年、残されし吾と犬2匹と九官鳥、広き庭の植木の剪定と草取りと汗も枯れるほどの忙しさ。されど夜ともなれば、CDでモダン・ジャズを聴きながら、晩酌の時が流れる。

渡部 亨(昭35卒)

●介護福祉士・ケアマネジャーの資格を取得、介護保険指定事業所として訪問介護事業を経営。都内中心に展開し今年10周年を迎えます。自分自身も前期高齢者ですが、高齢社会に役立ちたいと日々過しています。

花岡 紀夫(昭35卒)

●蒲田の墨田病院泌尿器科に水～土の4日間勤務。この間金曜日の午前中は中央労災医員を拝命し、厚生労働省の16階にある労災補償部にあります。月に1回、日本対がん協会のがん相談員として、2時間で4人の「泌尿器科がん」の相談に応じております。蝶採集は続けています。

松嶋 正浩(昭35卒)

●現在は仕事を離れております。高校時代の3年間は石廊崎での生物部の夏合宿に出ていました。

秋山 圀之(昭35卒)

●数学科の教員として40余年、この3月で母校の教壇を降りました。時折り教室で、天野先生の教えを子供たちに話してきました。これからは好きな山登りと蝶採集に打ちこめればと考えています。

金 有一(昭35卒)

●同期の安倍君、高山君、森君、私、の四人で「獨四会」を始めて半世紀。早いものだ…。始めは男だけ、次に夫婦、そして家族で、顔を会せ、酒を友に大いに近況を語り合う。これからも、健康に留意して「獨四会」を続けていく所存…。

大塚 弘(昭35卒)

●高校卒業以来半世紀が過ぎました。早いものです。現在は88才になる母を家内と共に老老介護の日々を過しております。

間地 正(昭35卒)

●卒業して何と50年目とは、感慨深いものを感じます。入学した時は新校舎完成の年でした。学園傍の永青文庫を訪れる度に、立派になった校舎を眺めつつ、当時のことを懐かしく思い出します。そう、諸先生や級友達とのエピソードをです。

森山 知英郎(昭35卒)

●'07年ピーターポール&マリーのポールさんの拉致された、横田めぐみさん支援コンサートを、偶然にも46年卒の杉野氏と共にプロデューサーの1人として協力しました。めぐみさんの弟さんは獨協大卒です。

荒井 利之(昭45卒)

●都立高校教員として入都以来30余年、現在都立戸山高校校長として勤務しております。現任校の沿革史を見るにつけ、獨逸学協会学校の偉大な足跡を偲んで

います。母校のさらなる発展を期待しております。

内田 和博(昭45卒)

●開業医として13年目になります。診療と医師会の業務に追われる日々です。

山口 善弘(昭55卒)

●高校卒業30年を記念して、6月27日(月)椿山荘にて昭和55年卒業生の同窓会を開催します。中学卒業時の主管の四先生もお招きし、大勢で旧交を温められれば、と願っています。

島村 智教(昭55卒)

●卒業してから30年が過ぎました。2年前に中学の同窓会が開かれました。首から中学時代の顔写真が付いたネームプレートを下げて、変った?変らない姿?に談笑の輪が広がりました。校舎が新しくなってから一度も母校に行ってません。見学会でもあれば行ってみたいと思っています。

菊池 憲一郎(昭55卒)

●老人医学を中心に医療を行っています。

木村 元(昭55卒)

●昭和55年卒業同窓会の幹事です。平成22年6月27日(日)午後1時、椿山荘で会いましょう。沢山の参加をお待ちしています。

荻原 章弘(昭55卒)

●鉄道好きの息子に付き合い、寝台列車に乗りました。修学旅行を思い出しました。時間のかかる旅も時には良いものですね。

奥澤 昌一郎(昭55卒)

●2006年より獨協医大越谷病院に勤務しています。2008年より、中・高の校医もしており、月数回、目白におじゃましています。

春木 宏介(昭55卒)

●この2月に長男が中学受験をしました。第一志望に合格しましたが、少子化の割に自分の頃より大変だと思いました。入学した頃の金有一先生の熱血指導には今も感謝しています。

小林 香(昭55卒)

●来年以降の転居に伴い、新しい形式による地域医療活性化を考えています。また、50才を前にして、夢と希望を若者に与えられる社会に変えることが、私達の責務と思い頑張ることにしました。

土谷 寛芳(昭55卒)

●卒業してはや20年。広告会社でマーケティングしています。数Iをしっかりと勉強しておけば良かった。獨協の友は付き合いよく、知己として頼ってます。

武方 浩紀(昭55卒)

●獨協ではスキー部でした。そのレーシングスキーを今でも続け、クラブの仲間と新宿で開業もしている。目白が原点です。

宮地 建次(平2卒)

●薬剤師として全国転々と武者修行に行っていました(笑)。現在はいわき市のびよびよ薬局で仕事と田舎暮らしを満喫しています。また、門前クリニックの院長先生も同窓の先輩でびっくり!獨協の輪ってすごいですね。

染谷 一孝(平2卒)

●平日は大学病院の歯科麻酔科医として勤務し、週末は趣味にと充実した日々を送っています。獨協吹奏楽部時代からやっているトランペット、凝りずに続けています。

大串 圭太(平12卒)

昭和 20 年（4 年卒業） 1 組クラス会

平成 21 年 11 月 5 日（木）に、新橋にある九州工大・鳳龍クラブでクラス会を行った。今回の参加者は井上富夫、加藤壽吉、黒川泰三、坂本敬三、桂 義之の 5 名で、健康談義や終戦前の学徒動員時代の思い出などで盛会であった。（桂 義之・記）



生きしている。晴耕雨読の一人も、忙しい日々で声につやがあり雄弁は変わらずであった。この会は約 20 年前から定期的で開催されているので、昔の写真を見ながら、頭髮の進化？、後退？など回顧のひとつときでした。（辻 定利・記）



昭 54 年卒 合同クラス会

昭和 25 年卒 大豆会

昭和 25 年卒獨協大豆会を、2009 年（平成 21 年）11 月 12 日（木）に、天高く聳え立つ、霞ヶ関ビル 35 階レストラン東海倶楽部で開催した。眼下に国会議事堂を見下ろし、眺望も素晴らしく、皆一同中天の楼閣にいるがごとき心地にて、大いに美食・美酒に酔い、肝胆相照らして談笑し、再会を約して散会した。（市村圭司郎・記）



平成 21 年 12 月 5 日（土）、小雨の降る中、待望の卒後 30 周年記念クラス会を、天王洲アイルの第一ホテル東京シーフォート 28 F「トップ・オブ・ザ・ベイ」で行いました。合同のクラス会は今回が初めてで、師走にもかかわらず 50 名の参加者がありました。新宮譲治先生、永澤滉先生にもご出席頂き、大変思い出深い会になりました。ジャズバンドの演奏、校歌斉唱もあり、バブリッジの夜景を楽しみながら、まるで 30 年前にタイムスリップしたようでした。「今後、節目にはクラス会を開催しよう」と固く約束を交わし、「シーフォートクラブ」で行われた 2 次会でも大変盛り上がりました。職業、立場は違えど、同期はいいものだなと実感した次第です。最後になりますが、今回設営に関してご尽力頂いた浜島浩史君にお礼を言いたいと思います。ありがとうございました！（野村芳樹・記）

（野村芳樹・記）

昭和 38 年卒 英語クラス同期会

恒例の 38 年英語クラス同期会が、冷たい小雨の中、平成 22 年 2 月 13 日、上野公園内「韻松亭」に 9 名が集う。65 才ほやほやとなった人もいて、今回は人生の一つの区切りである「65 才」が話しの中心。経営者のもとより、再雇用継続中の人は現役の形で社会貢献を実施中であり、仲間の顔は元気そのもの、生き



1993 年度卒業 Tommy'93

1993 年度卒業 3 年 4 組のクラス会を昨年の 12 月に新宿にて開催いたしました。この日は、他のクラスで連絡が取れる人達も参加。5 年前のクラス会は、30 歳を記念しての集まり。5 年後に再び皆で集まろうと誓い、それが叶うことに。卒業生 31 人と富井先生を加えての 32 人の参加となりました。この日は渡辺先生が都合により参加できなかったのが残念でした。不況の最中、愚痴や小言などは縁も無く昔の話で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。野球部の顧問である富井先生に、我々卒業生から「Tommy」と記した真っ赤なノックバットとバッティンググローブを贈呈させていただきました。なにより富井先生と皆の元気な姿が嬉しかった 1 日でした。また 5 年後にお会いしましょう。(木村 圭・記)



2006 年度卒業 2組 志村会

平成 21 年 12 月 12 日新宿の居酒屋「北の家族」にて第二回となる「志村会」の忘年会が行われた。参加者は 12 名。前回よりも少なく、参加者も先生も残念に思っていた。次回は参加者が増えることを願っている。今回のクラス会での話題の中心は就職についてであった。不況ということもあり、とても厳しい状況に直面している人が多いようだ。そんな苦境の中にあっても明るい人が多かったのが印象的だ。彼らは決して自暴自棄になっている訳ではなく、また自分に与えられた運命を嘆いているわけでもない。そうではなくて、自分に与えられた変えることの出来ない運命を、いかに自分なりに歌い上げていくかということを考えているのだ。それは現実を生きる強さである。過去や運命は変えられないが、過去を現在のために、現在を未来のために活かすことは出来る。現在を過去の結果としてのみ捉え、過去に縛られ運命を嘆くだけの貧弱な人生を送るのか、それとも現在を未来の原因と考え力強

く生きるのか。そこに人の真の価値があるように思う。来年も是非。(幹事・吉川、会計・本田)



2009 剣道部OB会

平成 21 年 12 月 26 日(土)、稽古納めにあわせて OB 会を開催いたしました。目白通りの鬼子母神前「入り江」にて、斎藤師範をお招きし、山口(S 46)、山崎(S 46)、南條(S 46)、木屋(S 54)、小沼(S 55)、西川(S 59)、柳川(H 14)、山本(H 19)、渡辺(H 19)、金子(H 19)、大宅(S 54)、〔敬称略(卒業年)]の総勢 12 名が参加しました。宴会では山口会長のご挨拶をはじめとして、全員に現況や剣道との関わりなどを話してもらいました。職場の剣道部で現役復帰した山口会長、長年居合の修行をされている山崎先輩、道場主の木屋君、自宅にて自主練継続の渡辺君、大学体育会剣道部主将の山本君など、多くの OB が剣道の道に携わっておられました。また、斎藤師範からは部員たちにとって、OB の支えが大きいことを力説頂きました。今回は南條先輩他、顔なじみが多く、若い世代から 50 代まで年齢差を越えてうち解けて語り合うことができました。この度は、集まりにくい開催時間であったことや、メール連絡が可能な OB のみの召集で、出席者が少なかったのですが、今後は多くの OB にご参加頂き、活発な OB 会活動を目指したいと思います。

(大宅・記)



物故者名簿 (『独協通信』72号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭20年	伊藤 博	平 20.8.22	昭31年	白井 宣次	平 21.9.13
昭03年	高川 克己	詳細不明	昭20年	河本 陽三	平 21.1.6	昭31年	藤井 正男	平 15.1.13
昭06年	稲村 正雄	平 18.9.22	昭20年	田中 三郎	平 21.1.26	昭31年	富田 正夫	平 20.9.23
昭08年	新井 孝喜	平 22.3.15	昭20年	三穂 乙實	平 21.10.20	昭33年	池田 直一	平 20年
昭09年	小林 広	平 7.10.26	昭20年	吉岡 辰次郎	平 8年	昭34年	飯島 伸二	平 21.5.26
昭10年	堀井 武次	平 20.11.23	昭20年	吉原 直己	平 20.2.16	昭34年	武曾 繁和	平 21.1.26
昭11年	足立 愛二	平 21.9.19	昭21年	江口 角蔵	平 17.12.20	昭34年	遠井 真澄	平 21.1.26
昭11年	瀬谷 英行	平 20.12月	昭21年	高木 健造	平 20.7.12	昭34年	徳川 雅洋	平 21.4.12
昭11年	中山 金之祐	平 20.8月	昭22年	伊藤 昇	平 21.11.24	昭35年	桜井 英宏	平 21.8.15
平14年	高橋 雄太	平 20.2.15	昭22年	酒井 正昭	平 20.11.27	昭35年	佐藤 文彦	平 19.6月
昭14年	吉田 稔	平 21.8.3	昭23年	川村 満元	平 21.5.23	昭35年	関根 英俊	平 21.8.9
昭16年	江刺家 孝	平 21.7	昭24年	野口 雄弘	平 20.6.17	昭36年	宮司 一正	平 20.10.15
昭16年	小林 浩一	平 19年	昭24年	山崎 哲夫	平 22.2.14	昭39年	青木 哲也	平 20.5.31
昭16年	小見波 泰治	平 20.6.12	昭25年	青木 康雄	平 21.2.19	昭40年	大木野 信介	平 21.4.17
昭16年	町田 恒雄	平 20.5.17	昭25年	赤坂 俊夫	平 21.1.10	昭40年	小俣 栄一	詳細不明
昭17年	吉田 穰	平 21.5.1	昭25年	飛田 光興	平 21.1.25	昭41年	岡部 洋一	平 21.1.11
昭18年	青木 勲	平 21.1.29	昭25年	増子 幸也	平 20.12.26	昭41年	高柳 喬平	平 20.9.29
昭18年	篠崎 匡生	平 21.10.13	昭25年	森 寺章滋	平 17.11.5	昭41年	山崎 伸介	平 21.9.1
昭18年	平沢 直義	平 20.7.15	昭25年	山谷 恒夫	平 21.1.22	昭41年	大和 茂彦	平 20.2月
昭18年	前田 公衛	平 20.6.11	昭26年	齋藤 申一	平 21.4.29	昭43年	田中 清介	平 12.5月
昭19年	今井 和夫	平 21.12.12	昭26年	細野 真一	平 20.5.5	昭44年	山岡 徹雄	平 20.10.13
昭19年	岩田 豊三郎	平 18 詳細不明	昭27年	小松 守雄	平 20.8.20	昭45年	岸 太一郎	平 22.9.25
昭19年	木村 譲	詳細不明	昭27年	中島 久視	平 18.5.11	昭48年	島村 和宏	平 20.1.5
昭19年	重廣 正	平 22.110	昭29年	上田 素之	平 21.2.14	昭48年	平林 正之	平 18 詳細不明
昭19年	遠田 秀穂	平 20.6.20	昭29年	川口 喜八郎	平 21.4.20	昭53年	松見 達仁	平 8.5月
昭19年	新戸 新堂	平 21.5.	昭30年	斎藤 太美雄	平 20.3.8	昭57年	上石 篤史	平 5 詳細不明
昭19年	原 利一	平 21.11.19	昭30年	堀田 寛	平 21.8.	平 3年	石山 奉一	平 21.11.
昭20年	浅田 俊彦	平 21 詳細不明	昭31年	井熊 敏明	平 21.1.4	平 5年	春日 宏友	平 12.9

年会費納付のための「コンビニ収納」導入について

ご案内

これまでの払込用紙に替わり、左のような、「ゆうちょ銀行又は郵便局・金融機関用払込用紙およびコンビニエンスストア用払込用紙」を同封させて頂きました。

点線で表した部分のミシン目を切り取って、上記の窓口の何れかご都合のいい場所からご納付下さい。指定のコンビニは裏面に記載されておりますので、ご参照下さい。また、右側の青色印刷されたコンビニエンスストア用の「払込受領書」は切り取らずにお持ち下さい。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

切り取らずにお持ち下さい

ゆうちょ銀行又は郵便局・金融機関用払込用紙

コンビニエンスストア用払込用紙

払込用紙はこのミシン目よりていねいに切り離してください

切り取り (ミシン目)

切り取らずにお持ち下さい

会費納付が身近になりました 24時間営業のコンビニなら何時でもOK

年会費納付のお願い

会長 鈴木 荘太郎

獨協同窓会は、“会員相互の親睦と向上を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的とする”ために発足したものです。その目的をより活性化するために、今年度も新たな活動を追加して参ります。

当会は、母校の歴史を知る術の一役を担うべく、今年度も獨協祭に参加致します。そして、「独協通信」に掛かる費用を見直し、全国大会出場など優秀な成績を挙げている学友会活動のバックアップをすべく、学友会補助費を再設致します。更には、母校からの要請にタイムリーに対応できるような体制を整えていかなければならないと考えております。また、会員相互の有益なステージを設けることも視野に入れております。それらのためには潤沢な資金が必要であり、それは将来の円滑な運営のために、ますます不可欠な要素となってきます。

現在、獨協同窓会の会員数は、明治16年創立以来約22,000名にのぼります。そして、ご承知のように当会の運営は、すべて会員の皆様の年会費によって成り立っています。しかしながら、納付されている年会費総額は、5頁の平成21年度決算報告および右のグラフでお分かりのように、会費納入対象者の僅か12%の方々によるものです。そのため、今まで積み立てられてきた資産を取り崩して運営費に充てるといふ不本意な事態が続いているのです。今後、同窓会活動を、より豊かに納得頂けるような充実した内容に変革していくためには、このような財政では難しいものがあることをご理解頂けると存じます。

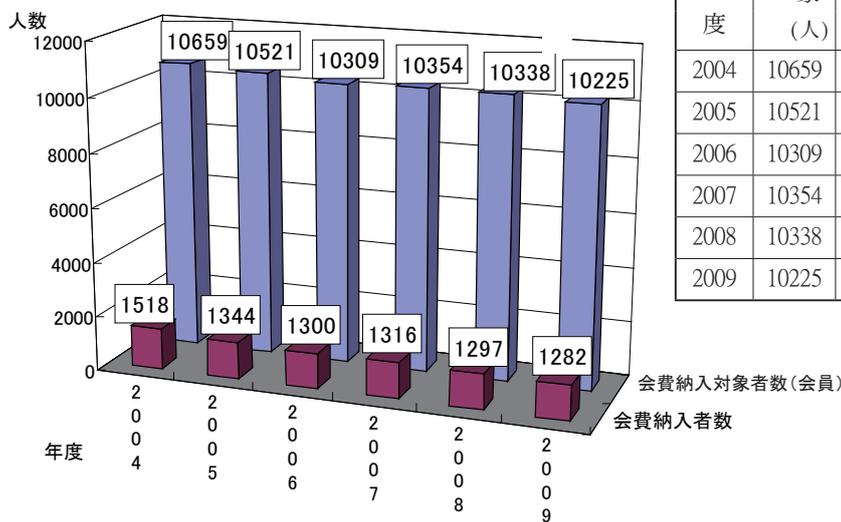
そこで、今まで未納でいらした会員の方にも、今年

度より年会費を是非ともお納め頂きたいのです。過去に遡ってお支払い頂くようなことはありません。また、納付方法も改善致します。これまでの年会費納付方法は、「口座自動振替」と「郵便局振込」との二つでしたが、便宜性を考慮し、今年度より「コンビニ収納」方式(15頁参照)を新たに追加導入することに致しました。これにより、年会費の納付増となり、スムーズな運営に繋がるものと期待している次第でございます。

獨協同窓会の本来の目的を充実したものにしていくためには、会員の皆様の協力なくしては遂行できません。“同窓会のために”というより、“母校発展のために”そして“生徒諸君へのバックアップのために”、より有効な資金活用を実現するために、皆様の協力が不可欠です。そして、同窓会は、試行錯誤しながらも更により活性化したものにすべく、努力して参ります。

どうぞ、このような同窓会執行部の意をお汲み頂き、是非とも年会費をお納め頂きますよう、ご協力・ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

会費納入対象者数(会員)と会費納入者数



年 度	会費 納入 対象 者数 (会員)	納会 入者 数 費 (人)	納会 入 率 費 %
2004	10659	1518	14.24
2005	10521	1344	12.77
2006	10309	1300	12.61
2007	10354	1316	12.71
2008	10338	1297	12.55
2009	10225	1282	12.54

編集後記

本号からA4判カラー印刷となりました。いかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。今回は、獨協中学・高校の近況をお知らせしております。在学中に行われていたマラソン大会も40周年を迎え、大切な学校行事の一つとなっています。編集子の記憶では、都下の狭山湖周辺で行われていましたが、

現在は荒川河川敷で、川風に吹かれて皆頑張っています。また、アーチェリー部は全国大会でも優秀な成績を残していて頼もしい限りです。今後も、学園の近況なども紹介していこうと考えていますので、これらの記事についてもご意見などお聞かせいただければ幸いです。(竹文)